

2. 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要 (2023年度)

＝ 学位授与の方針 (ディプロマポリシー) ＝
〈人文学部〉

人文学部は、カトリシズムの精神に基づき、人間の人格性を基盤とする学部共通の教養教育と、各学科における高度な専門教育を行い、所定の単位を修得し、次のような力を身につけた学生に学位を授与する。

1. 明瞭な根拠に基づいて理論的に思考し、判断する力を有する。
2. 生涯にわたって、主体的に学び続ける力を有する。
3. 自らの考えを表現するとともに、他者との意思疎通を図ることのできる言語能力を有する。
4. 自らの教養と専門性に基づいて、他者と協調して社会に貢献することのできる力を有する。

〈人間文化研究科〉

カトリシズムの精神にのっとり創設されている長崎純心大学大学院人間文化研究科は、博士前期課程 (前期2年、学位：修士)、博士後期課程 (後期3年、学位：博士) で構成されている。研究分野は文化、福祉、心理、教育・保育の分野からなり、各分野においてその学術理論及び応用実験を攻究し、その成果をもって文化、社会の発展に寄与することを目的としています。

博士前期課程

この目的を達成するための指針

1. 各研究分野における幅広い学問の基礎的能力
2. 高度な専門知識と倫理観をもとにした多角的思考力と分析力
3. 専門領域における問題解決力と専門職としての実践力

これらを身につけた上で修士論文または特定の課題の研究成果の審査及び最終試験に合格したものに、学位 (修士) を授与します。

博士後期課程

この目的を達成するための指針

1. 十分な学術専門知識
2. 新たな知を創造する研究能力
3. 各研究分野における優れた学術的な成果

これらを満たした上で博士の学位論文の審査及び最終試験に合格したものに、学位 (博士) を授与します。

＝ 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラムポリシー) ＝
〈人文学部〉

【教育課程の編成】

人文学部では、学位授与方針 (ディプロマポリシー) を達成するために4年間のカリキュラムを「基礎科目」、「基幹科目」、「応用科目」の3つの科目群によって編成します。

【教育内容・方法等】

「基礎科目」は、人文学部の全学生に共通の科目群であり、思考力、判断力、表現力の基盤となる教養、外国語の運用力、情報処理能力並びに健康の基礎を身に付けるとともに、地域社会の具体的な課題把握と解決のために主体的に学ぶ力を習得します。授業は、講義または演習形式で行います。

「基幹科目」は、各学科が目指す人材養成の目的を達成するために設けられた専門の科目群で、社会における自立のために必要な力を習得します。授業は、講義または演習形式で行います。

「応用科目」は、広く社会に貢献するために必要となる専門の学芸を知的かつ道徳的に理解し、応用する能力を習得します。授業は、人文学部の全学生が執筆する「卒業論文」の執筆につながる少人数のゼミナールである「専攻演習Ⅰa」「専攻演習Ⅰb」「専攻演習Ⅱa」「専攻演習Ⅱb」で行います。

〈人間文化研究科〉

本研究科では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した能力を取得させるため、次のような体系的な教育課程を編成し、身につけるべき力を定めています。

博士前期課程

1. 博士前期課程には、統合科目、基軸科目、展開科目からなるカリキュラムが設定されています。
2. 本課程では、統合科目を履修し、また、他分野の基軸科目を履修することが可能であり、それによって多角的思考力や分析力を身につけます。
3. 本課程では、専門分野の基軸科目、展開科目を履修することによって専門分野における問題解決力、専門職としての実践力を身につけます。

博士後期課程

1. 博士後期課程には基軸科目、総合展開科目からなるカリキュラムが設定されています。
2. 本課程では、基盤科目の履修により、十分な学術専門知識および新たな知を創造する能力を身につけます。
3. 本課程では、統合展開科目により各研究分野で学術的な成果を上げるための実行力を身につけます。

= 学習成果の評価（アセスメントポリシー） =

〈人文学部〉

人文学部全体としての学修成果の評価は、①学習時間・学習経験等に関するアンケート調査、②全科目を対象とする授業アンケート、③GPA並びに単位取得状況によって行います。

講義科目は、知識の習得に加え、論理的思考力、記述力、読解力、発言力について学期末試験、授業内で臨時試験、レポート提出、リアクションペーパーなどによって評価します。

演習科目は、広く社会に貢献するために必要となる専門の学生を知的かつ道徳的に理解し、応用する力について、論文やレポート提出、プレゼンテーションなどによって評価します。

〈人間文化研究科〉

博士前期課程

学修成果に対する評価は、以下の3点を総合的に評価します。

1. 履修した授業科目の成績
2. 提出される学位請求論文に係る研究発表
3. 学位請求論文

博士後期課程

学修成果に対する評価は、以下の3点を総合的に評価します。

1. 履修した授業科目の成績
2. 提出される学位請求論文に係る学内外での研究発表
3. 学位請求論文

= 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー） =

〈人文学部〉

長崎純心大学は、キリスト教ヒューマニズムに基づき「知恵のみちを歩み 人と世界に奉仕する」を教育研究の指針としています。学力は豊かな人間性がそなわって知恵となり、人と世界に役立つとき、真の力となるからです。この指針のもと、本学人文学部は、文化コミュニケーション学科、地域包括支援学科、こども教育保育学科によって構成されています。

各分野において高い専門性を有し、人と世界に奉仕できる人間を育成することを使命とする長崎純心大学は、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、高等学校までに習得すべき基本的言語運用能力を身につけた以下のような*入学生の受け入れを目指しています。

注) ※は学科ごとのアドミッションポリシーを記載。

〈人間文化研究科〉

本研究科は、設置の目的と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のような学生を受け入れます。

博士前期課程

1. 専攻する各研究分野について強い志向性と創造力のある人
2. 研究を遂行する上での基礎的学力を有する人
3. 外国人留学生の場合、研究等に必要な日本語能力を有する人

上記の人材を選抜するため本課程の入学試験では、提出された書類の審査及び個人面接による口頭試問を行います。さらに、臨床心理学分野においては、公認心理師として社会に貢献するために必要な心理学についての学部レベルの学力及び英語力を有する人を選抜するため、口頭試問に加え筆記試験を課します。

また、入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。

博士後期課程

1. 専攻する各研究分野に関する十分な学術専門知識を有する人
2. 学術研究能力があると認められる人
3. 外国人留学生の場合、研究等に必要な日本語能力を有する人

上記の人材を選抜するため本課程の入学試験では、提出された書類の審査及び個人面接による口頭試問を行います。口頭試問においては修士論文等や研究計画書を基にした質疑応答を通して、学術専門知識、学術研究能力、総合的思考力を判断します。

(2) 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）及び事業計画の進捗・達成状況

学校法人純心女子学園第4期中期目標・計画（2022年～2026年度）を策定し、「5年後にありたい姿」として、8割以上の学生が本学での教育及び学生生活に満足できるようにすること、学生の望む成長を教職員全員が全力でサポートすることを中期戦略目標に設定した。2023年度においては、それぞれの項目で点検・評価を実施した。2023年度の点検・評価を踏まえ、次年度以降の行動計画実施に向け、引き続き全力で取り組んでいく。

2023年度における各事業所における主な活動は次のとおりである。

長崎純心大学

1. 教育・研究

- ・人文学部の2学科で学科名称変更の手続きを行った。
文化コミュニケーション学科→言語文化情報学科（2024年4月入学生～）
地域包括支援学科→福祉・心理学科（2024年4月入学生～）
- ・学部基礎科目及び基幹科目の一部でカリキュラムの改正を行った。
- ・科目ナンバリング及びカリキュラムツリー、カリキュラムマップの作成を行った。
- ・各学科で、新入生対象のフレッシュマンプログラムを実施した。〔4月8日〕
- ・科学研究費補助金は、基盤研究(C)1件、若手研究1件、研究活動スタート支援2件、基盤研究(B)3件が新たに交付された。
- ・学修行動調査の実施・分析を行った。
- ・データベース説明会を行った。(図書館演習室)〔8月3日(木)〕
- ・アミュプラザ長崎のメトロ書店で、学生が図書館に入りたい本を探す「選書ツアー」を行い、25冊の本を本学図書館に受け入れた。
- ・モンテッソーリ教員資格試験を実施した。〔8月8日～9日〕
- ・ゼミ活動：田中ゼミ3年生が、「手遊びや楽器で楽しむ絵本の読み聞かせ」をみらい長崎ココウオーク TSUTAYA BOOKSTORE BOOK&KAFFE で実施した。〔8月10日〕
- ・ゼミ活動：原田ゼミ3年生が、長崎市科学館で行われた「青少年のための科学の祭典2023長崎大会」に「プラスチックで遊ぼう！」というブースを出展した。〔10月14日・15日〕
- ・ゼミ活動：岩瀬ゼミ3年生が長崎特別支援学校小学部の児童とオンラインで音楽交流会を行った。〔11月17日〕
- ・ゼミ活動：田中ゼミ3年生が大園幼稚園にて「キャラバン隊」として保育実践活動を行った。〔2月13日〕

- ・地域包括支援学科の学生が、社会福祉法人南高愛隣会「利用者サービス評価調査」を実施し、面接調査に参加した。〔9月、10月〕
- ・地域包括支援学科の学生が、「長崎地域医療セミナー」への参加や地域包括ケアシステムに関する講義をとおして学んだ「多職種連携」や「地域」についての学びについて、報告会を行った。〔12月16日〕
- ・地域連携センター医療・福祉連携部門が、太良町社会福祉協議会や太良町立病院、太良町地域包括支援センターと共同し、地域包括ケアシステムに関する調査研究を行った。2月10日に調査研究の一環として、太良町地域包括ケアシステム視察が行われ、教員と学生が参加した。
- ・入学予定者へ入学前プログラムリモート交流座談会を実施した。〔2月3日 2月17日〕
- ・入学予定者へ学科別プレ講座を実施した。〔3月6日〕

2. 学生・キャリア支援関係

- ・キャリアに関する説明会
 - ① (株)十八親和銀行、オリックス生命保険、長崎県教育委員会、長崎県、長崎県警察、長崎市私立幼稚園・認定こども園協会、(社福)ゆうわ会他多数を招き、学内での就職説明会を年間で40回開催した。
 - ② 「花王メイク・身だしなみセミナー」「適職診断」「業界研究」「自己分析」「公務員ガイダンス」「東京アカデミーによる教員採用試験対策講座」等、就職に関するセミナーを年間で20種類開催した。
 - ③ ながさき合同企業説明会、NAGASAKI しごとみらい博、マイナビ就職 EXPO 等学外での合同説明会に、年間で6回参加した。
- ・令和5年度全国社会福祉大会において、中央共同募金会会長表彰を受賞し、本学において長崎市社会福祉協議会により、伝達式が行われた。〔12月6日〕
- ・国家試験合格状況(社会福祉士20名 介護福祉士10名 精神保健福祉士2名)
公立学校教員採用試験合格状況(小学校教諭29名 中学校国語4名 高等学校国語1名 高等学校英語1名)
- ・学生会と1年生との懇談会を実施した。〔7月8日〕
- ・「多職種連携たまごの会」が「岩手たまごの会」「そーさぼ旭川」と活動報告会を実施した。〔5月7日〕
- ・「保育実践研究会 Smile」が中央公民館において、「ひよこサロン」(子育て支援活動)を開催した。〔5月28日〕
- ・平和活動の本学学生団体 Green Peaces の学生が、永井隆平和賞受賞者発表式典(島根県雲南市)に招聘され、平和に関する講演を行った。〔9月10日〕
- ・「学生サポーター」が発足し、6名の学生がサポーターとなった。11月24日、11月28日、12月6日の3日間サポーター室を開室し、学生のさまざまな相談に応えた、
- ・「保育実践研究会 Smile」が長崎市東公民館で開催された「にこセン子育てフェスタ」に参加した。〔11月19日〕
- ・「保育実践研究会 Smile」が長崎市中央公民館において「きらめきクリスマス会」を開催した。〔12月10日〕
- ・「純心コールマリーエ」が第30回記念ヴォーカル・アンサンブル・フェスティバルで「雨森文也賞」を受賞した。〔12月24日〕
- ・茶道部の学生がデイサービスでお茶会のボランティアを行った。〔11月23日〕
また、「第44回学校茶道エッセイ」において、本学学生が、学生の部の第一席に入賞した。
- ・地域包括支援学科学生が、浜町アーケードに児童虐待に関するポスターの掲示を行い、長崎県子ども家庭課の職員の方々と共に、オレンジリボンやティッシュの配布を行い、普及啓発活動を行った。〔11月11日〕
- ・地域包括支援学科の学生が、浜町アーケードで、「歳末たすけあい運動」の募金活動を行った。〔12月9日〕

3. 教職員研修

- ・防災訓練〔8月22日〕
- ・第1回SD研修会〔8月23日〕
テーマ：『伝える』から『伝わる』～コミュニケーションと接遇～
講師：フリーアナウンサー 東島 真奈美 氏
- ・純心高齢者福祉研究センター主催講演会「高齢者の尊厳と権利を守る支援」
講師：本多 勇 先生(武蔵野大学) 地域包括支援学科教員と恵の丘4施設職員50名参加
- ・純心高齢者福祉研究センター研修会
講師：澤 宣夫 教授 参加者：恵の丘4施設16名+地域包括支援学科教員〔9月1日 9月8日〕
- ・第2回SD研修会〔9月6日〕
テーマ：「これってハラスメント？～職場のハラスメントの具体例～」
講師：青野・平山法律事務所 平山弁護士
- ・職員の学内研修〔9月7日、11日、12日〕

- ・科研費申請講演会「科研費申請の最新動向～採択をつかむためのポイント解説～」
(中安 豪氏：ロバスト・ロバストジャパン株式会社) [7月5日～9月30日] (オンデマンド形式)
- ・カトリック委員会主催 平戸巡礼 [7月16日～17日]
- ・純心聖母会三ツ山修道院主催・カトリック委員会共催 島原巡礼 [10月24日]
- ・研究倫理・コンプライアンス研修会
(松場 里弥氏 (ロバスト・ジャパン株式会社)) [11月30日～3月8日] (オンデマンド形式)
- ・地域連携センター主催プレスリリース研修会 [2月28日]
- ・FD研修会 [3月8日]
テーマ：＜学修 (学習) 成果の可視化＞について考える

4. 入試広報活動

- ・進学懇談会を県外1校1名、県内25校28名の教員を招き開催した。[6月28日]
- ・長崎県立長崎鶴洋高校1年生 (11名) 学校見学を受け入れた。[7月5日]
- ・オープンキャンパスを実施した。[7月29日 (土) 8月11日 (金) 8月26日 (土) 3月23日 (土)]
- ・進学ガイダンスに参加し、大学の説明や模擬授業を行った。[年間とおして]
- ・県内高校を中心に高校訪問を行った [年間とおして]

5. 施設・設備関係

- ・T棟屋上、機械室屋上の防水工事を実施した。
- ・S棟L棟空調工事

6. 生涯学習・地域貢献・地域連携

- ・各研究所、センター主催で公開講座を実施した
 - ① TOEICに備える特別セミナー Part1 [5月20日]
テーマ：「TOEICテスト受験準備講座」
講師：ドーソン・ルイス (本学文化コミュニケーション学科講師)
 - ② 長崎学講座 [5月20日～7月15日]
テーマ：「キリシタン禁制高札撤去と近代化」
講師：片岡 瑠美子学長他
 - ③ 心理教育相談センター講演会 [6月3日]
テーマ：「会社がなぜ人をいやすのか～語りきくことの意味と意義」
講師：森岡 正芳 (立命館大学総合心理学部教授)
 - ④ 第61回長崎・キリシタン文化研究会 [6月3日]
テーマ：「これは私も受けたものですー岩永マキたちの証しー」
講師：古巢 馨 (本学教授 カトリック長崎大司教区司祭)
 - ⑤ 第34回児童教育研究所公開講座 [6月17日]
テーマ：『『男性保育士物語』出版18年後に思うこと-わが国における保育と父親による育児の現在地-』
講師：小崎 恭弘 (大阪教育大学教育学部教授)
 - ⑥ TOEICに備える特別セミナー Part2 [7月29日]
テーマ：「TOEICテスト受験準備講座」
講師：ドーソン・ルイス (本学文化コミュニケーション学科講師)
 - ⑦ TOEICに備える特別セミナー Part3 [10月7日]
テーマ：「TOEICテスト受験準備講座」
講師：ドーソン・ルイス (本学文化コミュニケーション学科講師)
 - ⑧ 日本語教育公開講座 [10月7日]
テーマ：「大規模言語モデルと言語学」
講師：川添 愛 (元津田塾大学特任准教授)
 - ⑨ 第46回純心博物館講座 [10月21日]
テーマ：「Freed imagination」
講師：小國 雅香 (ピアニスト)
 - ⑩ 第35回児童教育研究所公開講座 [11月11日]
テーマ：「保育・教育現場の「合理的配慮」と多職種の連携-医療的ケア児等コーディネーターの視点より-」
講師：井村 弘子 (長崎県医療的ケア児支援センター)

- ⑪ 第46回純心英語教育公開講座〔12月3日〕
 テーマ：「英語の中を覗いてみよう～非言語コミュニケーションの異文化比較～」
 講師：山崎 祐一（長崎県立大学教授）
- ⑫ TOEICに備える特別セミナー Part4〔12月9日〕
 テーマ：「TOEICテスト受験準備講座」
 講師：ドーソン・ルイス（本学文化コミュニケーション学科講師）

・博物館において5回の企画展示を行った。

- ① キリシタン禁制高札の撤去と近代化〔5月17日～6月17日〕
- ② 被爆78年 純心と原爆―平和を祈る―〔6月28日～8月31日〕
- ③ 塩月悠個展 みえるこえ、きこえるひと〔10月10日～11月18日〕
- ④ 世界のクリスマス展〔12月1日～1月12日〕
- ⑤ 武文桜監修 群像人形「竹取物語」展〔2月13日～4月16日〕

- ・企画展塩月悠個展「みえるこえ、きこえるひと」十八親和ふるさと振興基金に採択。10月11日に贈呈式を実施した。毎週水曜日12時15分から塩月先生による作品解説などのギャラリートークを開催した。
- ・川平小学校区コミュニティ連絡協議会設立準備委員会出席（5月25日 7月16日 10月21日 12月14日）
- ・川平日和（川平小学校お別れ会）に参加した。〔9月17日〕
- ・全国カトリック障害者連絡協議会全国大会を本学で開催した。〔10月14日、15日〕
- ・Junshin Cup 英語オーラルコミュニケーションコンテストを開催した。〔10月28日〕
- ・第2回たっしょトーク！かわひらに教職員、学生が参加した。〔11月3日（金・祝）〕
 内容：川平小学校区コミュニティ連絡協議会設立に向けたまちづくりに関するワークショップ
- ・TOEIC IP〔11月18日・2月3日〕
- ・第3回たっしょトーク！かわひらに教職員、学生が参加した。〔1月27日〕※本学を会場として実施
 内容：川平小学校区コミュニティ連絡協議会設立に向けたまちづくりに関するワークショップ
- ・国立諫早青少年自然の家との包括連携協定締結式を行った。〔3月18日〕

7. その他

- ・後援会総会・保護者会開催を開催した。〔5月20日〕
- ・名誉教授称号授与式を挙行了した。〔5月27日〕
 山口康子氏、本田利光氏、鈴木千鶴子氏、平湯文夫氏、青山キヌ氏、山内清海氏に名誉教授の称号が授与された。
- ・早坂成績優秀者奨学金表彰式を挙行し30名の学生が受賞した。〔6月24日〕
- ・片岡瑠美子先生感謝の会を実施した。〔3月23日〕
- ・2024年度に受審する認証評価に向け、規程の整備を行った。
- ・補助金獲得に向け、教学企画室を設置した。

【総括】

2023年度は、全体をとおして、さまざまな取り組みをコロナ禍前の状態に戻し実行することができた年であった。教育・研究では、学びの内容を明確にするため、2つの学科で名称変更の手続きを行い、さらには、基礎科目や一部の学科のカリキュラム改正を行うことにより、教育内容の充実をはかる準備を整えた。

キャリア関係においては、学内での就職説明会を多数開催することができた。また、教員採用試験や国家試験の対策講座にも力を入れた。結果として、高い就職率、試験合格率を達成することができた。

地域貢献・地域との連携においては、学生を中心としたゼミやサークルによる地域でのさまざまな活動やセンター・研究所主催の公開講座等もほぼ計画的に実施することができた。このことは、社会に大学をアピールする大きな材料となっている。

特に継続的な取り組みとして、2022年度から発足した川平小学校区コミュニティ連絡協議会設立準備委員の活動は、本学を含めた川平地区周辺の自治会や企業、施設、小中学校等が集まり、これまで、まちづくり計画の話し合いを計画的に行っており、2023年度中の協議会設立に向け順調に進めることができています。一方で、2019年度より全学科男女共学化し、以降定員充足を果たしてきたが、2022年度以降定員未充足となっており、今後も18歳人口が減少する中、定員の確保は大きな課題である。

この状況を改善すべく、現状の取り組みを活性化させ、新たな改革や取り組みを検討していく必要がある。

4) 特色ある教育としての主な活動（探究活動と平和教育、国際交流）

①平和教育

- ・ 8月8日 国立市、多摩市の小中学生の受け入れ（台風のため中止）
- ・ 8月8～9日 東京純心中高「平和の旅人」（生徒3名 教員1名）受け入れ
- ・ 8月8～9日 原爆慰霊祭（前日 中学生による清掃奉仕）台風のため教職員のみ
- ・ 8月9日「長崎原爆犠牲者慰霊平和式典」（長崎市主催 於：平和公園）が台風のため縮小され、高校音楽部とⅢ音楽選択者が準備していた「千羽鶴」の合唱の代替として、市役所の大型ビジョンで放映（聖堂で録音・録画／音楽部のみ）

②探究活動

- ・ 高校Ⅰ、Ⅱ類コースの探究活動の継続 / 高校Ⅰ、Ⅱ年全学年による探究活動
- ・ 長崎純心大学での発表と研究室訪問（Ⅱ年 23.3月に実施）

③国際交流

- ・ Tomodachi プロジェクト
- ・ グローバルワークショップ

④長崎純心大学との連携（純心中高大連携英語教育推進プロジェクト）

- ・ ネイティブ教員による英会話授業
- ・ 大学生による異文化体験発表
- ・ 高Ⅰ大学調べ発表 評価・アドバイス
- ・ 大学生による異文化体験発表（12月）
- ・ 大学生による卒業論文発表会（2月）

⑤純心南山教育連携（純南）プロジェクト

- ・ 授業系：7月～12月 北九州予備校による受験対策講座通年（純心大学地域連携センター）
- ・ ワークショップ：4/14（金）純南チャレンジ / 10/29（日）田上前市長による講演会及びワールドカフェ / 11/8（水）、9（木）三校（青山学院高・南山・純心）で「平和」をテーマにディスカッション
- ・ 異文化理解：Tomodachi プロジェクト / グローバルスキルアップフォーラム（哲学対話）
- ・ 文化部合同発表会：8/11（金） / 11/11（土）GLE ピアノコンサート&ワークショップ
- ・ 広報連携：教育連携リーフレット作成（2作目） / ロゴ&キャラクターコンテスト / 合同地区説明会

2. 教職員研修

- ①（4/4実施）純心教育について
- ②（4/25実施）令和6年度からの時程について（教務関連） / 校則見直し要望書への回答について（生徒指導部） / AED操作
- ③（6/20実施）入試広報のための共通理解について（入試広報委員会） / 令和6年度の行事予定について（学校組織マネジメント委員会）
- ④（8/23実施）令和6年度からの時程について / 令和6年度からの「土曜日」の扱いについて

3. 施設整備・改修

- ①ロザリオ館 空調機更新（一期）
- ②西側カイズカイクキ・既設フェンス撤去及び目隠しフェンス新設工事
- ③ネットワーク再構築

4. 総括

令和5年度、高校I年生よりアカデミックプロジェクト（AP）・グローバルプロジェクト（GP）・キャリアプロジェクト（CP）が始まった。この一年、それぞれのプロジェクトの特徴を縦につないでいくためにそれぞれに推進委員会を設けて取り組み、整理してきた。特に、今年度の募集が上手くいかなかった GP に関しては、コロナ禍も明け、英語科、国際教育委員会の努力によって校内外で様々な活動を繰り広げ、成果を残してきたので、令和6年度の募集にもつながったのではないかと考えている。

また、生徒募集に関しては、昨年度より渉外対応に力を入れてきたことを継続し、中学校から見られている純心、他の私学との比較などを少し整理することができ、年度終わりには教員間で共有した。部活動で実績をあげたことをはじめ、スカラシップ制度、スポーツ特待制度、推薦制度の利用によって、最低限度の入学人数を確保できているところがあるので、今後は、推薦枠の中で一般生徒をいかに多く招いていくかが課題である。

そして、生徒募集において、進学実績は影響をもたらす大きな一面である。今年度は厳しい結果となったが、現状を把握し、これまで同様ではない新しいプロジェクトの中での取り組みを通してどのような方向性で行くかを見極めていくことになる。

この2年間（2022～2023年）、AGSコンサルティングに高等学校経営改善現状分析を依頼し、主に生徒募集に関することでこれまで検討を重ねて来たが、この3月末をもって終了した。

社会的にも話題となっている学校の課題、教員不足、保護者対応の問題、SNSがらみの問題など、この一年、このような課題と直接に向き合ってきた。すぐに解決していくようなものではないので、種々の課題に対応していくスキルとコーチングの研修が必要である。

また、昨年度末に確定した「純心スピリット」を生徒・教職員に配付し、前期・後期末に振り返りをする機会を設けた。来年度は、もう一歩前に進めて、具体的に活用していくつもりである。

1. 認可定員 250 名

園児数状況

幼保連携型認定こども園	利用定員	R6(2024). 3. 1現在	備考
長崎純心大学附属純心幼稚園	210名	233名	

2. 保育・教育目標

神様の似姿に創られたいのちを大切に、神様にも人にも喜ばれる人を育てることを目指して教育保育に努めた。毎日の教育保育の示唆としてお祈りをする子ども、心の優しい子ども、生きる力を持つ子どもを育てることを目標に“神さまから託されている 子どもを通して私は伝えたい！！愛されること 愛すること 生きる喜び“をミッションとして掲げ、を純心幼稚園の教育の実践に努めてきた。

3. 教育・保育内容

- ① 神さまの似姿として創られたいのちを大切に、人に対する愛情と信頼する心を育てることを目指した。
- ② 一人ひとりの家庭環境を見極め、教育と養護のバランスに配慮しながらモンテッソーリ教育の充実を図る。
- ③ 子どもの様々な内面の要求を満たし、モンテッソーリ教育を通して宗教・体育・絵画・音楽を通して生命の保持および情緒の安定を図った。
- ④ 基本的な生活習慣や言葉を身につけ、一人で出来ることに喜びを持てるように自立を促した。

4. 給食の実施状況

- ① 毎月1回の給食検討会を持ち、楽しい食事の時間となるよう配膳、行事食、個別の対応を継続した。
- ② アレルギー体質の子どもへの対応は年々増加傾向にあり、保護者と栄養士の個別対応を実施し医師の診断書のもとに事故のないよう全職員に周知し配慮した。
- ③ 愛情弁当の日を毎月土曜日を含め3～4回程度。給食試食会を行い保護者様のアンケートからレシピを頂きたいとの意見も出され食育への関心が高くなって来た。また、家庭からのお弁当について、食べやすいメニューや作り方を管理栄養士の目線で保護者に伝えるなど、今後は咀嚼、嚥下等が難しいお子様が少しでも楽しい食事出来ることについてのメニュー、食材等の検討を行う必要性を感じる。

5. 教職員研修

- ・キャリアアップ研修該当者は全員は、Web研修でまとめて受講を完了した。研修で学び得たことを、園内研修で共有する時間を設けた。
- ・モンテッソーリ教育体育コースを1名受講し、ディプロマ取得に繋がる。他にも長期休暇中に体育研修に数名参加し新年度に備えた。
- ・モンテッソーリ教育は純心大学の養成コースと外部の研修情報を共有し、短時間で園内での学びを深めた。
- ・長崎地区と九州地区での、教育研究発表を行った。(7月・8月)

6. 小学校連携

- ・今年度は小学校訪問を実施することができ、校内の見学や体験を通して、小学校入学への期待を持つことができた。
- ・今年度も困り感を持つお子様に対しての巡回相談が多数となった。また、保護者からの要請で小学校の担当者と連携して専門機関の指導と園訪問を依頼するなど事例も出てきた。これまで通り、要録と併せて入学までの連携と移行について、園児が安心して小学校生活を送れるよう配慮した。

7. 長崎純心大学・純心中学校・純心女子高等学校との連携

- ・例年、純心大学の塩月ゼミ生との活動を行い、全クラスでの年齢別活動の中で、子どもたちが楽しく活動に取り組み学生との交流を図ることができた。
- ・モンテッソーリ教師養成コースの主任の林先生には、年間通してモンテッソーリ教育の環境と保育教諭の資質向上のために実習指導、現場指導と園内研修を依頼し可能な範囲で実施継続した。
- ・幼稚園・保育園実習は、積極的に受け入れを行った。
- ・中学・高等学校に関しては、農作体験や放課後のボランティア活動を定期的に計画していただいた。

8. 純心聖母会との連携

- ・純心聖母会ポプラ主催の「いこい庵」や「ちょい旅」黙想会に、職員が自由に参加できるよう声掛けを行い保育を深める助けとなった。
- ・保護者向けの宗教勉強会（カンターボ）は、人数制限をせずに、対面で行うことができた。少人数の中で子どもたちと同じ体験を通して、子育て世代の保護者支援と宗教教育への理解に繋げてきた。

9. 苦情解決第三者委員

苦情受付件数は 1年間を通してありませんでした。

10. 施設整備修繕及び修理

- ・3階講義室・サンタマリアホール・2階絵画室・1階図書館 空調更新工事 4月
- ・国道側園舎外壁塗装工事 7月21日～9月19日
- ・スクールバス入れ替え(新車納入) 8月
- ・スクールバス安全装置 9月
- ・さくら組・絵画室・2階体育倉庫 天井雨漏り修理 9月

11. 総括 2023年度の主な実施事業報告について

今年度は園長交代と全クラスの編成もあり、クラス担任も新しいクラスに配置となった。園児・保護者の戸惑いも少なくスムーズにクラス運営を進めることが出来た。

新型コロナウイルス感染症も5類に引き下げられたため、キャリアアップ研修を含め、研修等が対面・オンライン両方での参加可能となり、これまでより研修に参加しやすい傾向にあり、更に園内研修を通して、教育保育を見直す機会となった。

また、モンテッソーリ教育や宗教教育について、園児だけでなく、保護者への勉強会も継続して実施することが出来た。今後も純心教育の特徴を活かしモンテッソーリ教育・宗教教育を通して教育保育の充実を図りたい。

今年度は利用定員を下回る人数でのスタートであったが、満3歳児の入園希望者が2歳から待機している状態となり2024年3月で利用定員を超える園児数となった。

課題として、今後は満3歳児クラスと併せて子育て支援を更に充実させ、満1歳児から満2歳児をお持ちの子育て世代の保護者支援とその社会ニーズに対応できるよう園全体で研鑽していく必要がある。